



株式会社ぐしけん

リサイクル事業部 執行役員事業部長 知念進氏

**無農薬で安心・安全な野菜を安定供給したい。
今は、それだけにとどまらない可能性を感じています。**

連携パターン

製造者主導による商品開発

参入のきっかけ

- 安心・安全な野菜の安定供給
- 他社との味の差別化



工場内では蛍光灯の光を当てて栽培されている。管理担当者が生育状況を厳しくチェックする。

■高品質のレタスを安定供給

パン製造でおなじみの「株式会社ぐしけん」が昨年9月からレタス栽培を始めている。レタスは自社のサンドイッチや惣菜に使用され、他社との味の差別化が目的だそうだ。

そのレタス栽培事業の中心人物であるリサイクル事業部長の知念進氏は、「無農薬で育てる安心・安全のレタスをお客様に提供したいと思いました。県内でレタス生産が困難な時は本土産も仕入れていましたが、品質が安定しなかったんです。お客様は味の変化に敏感ですから、鮮度の高い野菜を安定して供給する必要があります。レタス栽培というのは初めての事業でしたが、旧工場の有効利用もできるということで始めました」



工場栽培のレタス3種。露地栽培のものより日持ちするという。店頭で見かけたら即購入を勧めたい。

準備には1年以上かかった。北中城の旧工場の一部を植物工場に改装し、9月から稼働させた。密閉され

た専用の栽培室で、光・温度・二酸化炭素濃度などを人工的に管理する。レタスは土でなく培養液を使った循環式養液栽培システムで育てられ、種を植えてから35~40日程で出荷する。種類は、フリルレタス、グリーンリーフ、サニーレタスの3種類。

「季節や台風などに関係なく、一定の品質で一定量を計画的に生産できます。病原菌や害虫被害もないので農薬も使いません」

植物工場で生産したレタスは色合いが良く、葉も大きくしっかりしている。瑞々しい張り艶があり、かなりの高品質を誇る。年間約16万株の収穫を予定しており、サンドイッチや巻き寿司、ベーカリーなどで自家消費されていたが、今年6月から「コープおきなわ」でも販売が始まった。

■売り切れ必死の人気野菜

「コープで販売してもらっていたサンドイッチや惣菜の

レタスが美味しいと評価されたのが始まりです。そこから青果部門バイヤーの方からコープで販売できないかとお話がありました」

コープの野菜売場では「安全・安心」と「地産地消」を目指している。そのコンセプトにぐしけんのレタスがぴりはまった。

「当社でも植物工場野菜の認知を高めたかったので、そういうプロモーションをしてくれるなら、とお願いました」。出荷されたレタスは県内8店舗で350株もあったが、納品当日にほぼ完売したという。リピーターも多く、露地栽培のレタスが入手困難なこの時期は特に人気で、1人当たりの販売数が限定されるほどだ。県内の他のスーパーからも引く手あまたというが、現在の生産体制では追いつかないということで断らざるを得ないと知念氏は話す。

また、工場自体も各方面から多くの視察や見学申し込み、問い合わせが殺到しており、注目度の高さを感じさせる。

「手探りで始めた植物工場ですが、やってみて様々な可能性を感じました。県民の皆様にも夏場も新鮮野菜を安定供給できる。露地では栽培できなかった野菜も作れるかもしれない。そうすれば多くの種類の野菜を選ぶ機会ができる。沖縄県内で作った安心で安全な野菜を広く提供できるというのは、県内の経済活性化になると思います。雇用も拡大できます。そのためにも工場を拡張したいんですが、電力コストが一番の問題です」

厳重な管理を行う植物工場では、初期投資よりも運営コストの低減が課題となり、LEDの導入も少しずつ始めたが問題も残る。特に電気料金に関しては、コスト低減につながる農事用電力の早急な認可に期待を寄せている。